

## 2015年度 中央大学特定課題研究費 — 研究報告書 —

所属	法務研究科	身分	教授
氏名	小木曾 綾		
NAME	Ryo Ogiso		

## 1. 研究課題

（和文）GPS を用いた監視型捜査に関する研究

（英文）Research on GPS tracking investigation and human rights

## 2. 研究期間

2年間

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word 程度）

（和文）

GPS 端末を被疑者車両等に装着して、これを追尾する捜査は、これまでよりもはるかに容易に、個人を継続的に監視し、その情報を蓄積することが、技術的には可能になることから、捜査機関の個人への干渉時点のみに注目したのでは不十分なのではないか、という視点が生まれている。人的資源を大量につぎ込まずに（低いコストで）目的を達成し得るという点では、従来、当然に任意捜査の範疇に入ると考えられてきた尾行といった捜査手法とも一線を画すものであるように思われる。政府機関が個人の生活を継続的に監視することができるのであれば、それには、誰もが何かしらの懸念を抱き、なんらかの規律が必要であると考えられるものと思われる。

研究開始時には下級審の判断が出始め、2016年3月15日に最高裁判所で大法廷判決も出たことから、2015年に主催した刑法学会の共同研究およびそれ以前に執筆した論文を基にして、研究機関終了後2年以内に、比較法的な見地も含めた論文を発表する予定である。

（英文）

Although GPS tracking system is useful to investigate crime, it may infringe people's privacy in various ways, as the Mosaic Theory suggests. This research explores how the system is employed, what rights may be infringed by the system, and how we should control investigations using the GPS tracking.